



## 機器の使用前点検

高知県工業技術センターの隅田 隆様からバトンを引き継ぎました地方独立行政法人京都市産業技術研究所の南 秀明です。隅田様とは、公設試験研究機関の横のつながりである産業技術連携推進会議の知的基盤部会における分析分科会でお世話になっています。分析分科会では、毎年、共同研究として、各公設試験機関で共通試料の分析を実施し、その前処理法及び結果を基に無機分析について情報交換を行い、分析技術の向上を目指して地道な活動を行っています。

京都市産業技術研究所は、平成15年に工業試験場と染織試験場が統合した公設試験研究機関で、平成26年4月に地方独立行政法人に移行しました。業務内容は、地域中小企業などにおける1) 製造技術・工程の改善、2) 品質管理、3) 新製品開発に関する技術的支援、4) 陶磁器、漆工などの後継者育成研修などです。組織は高分子系、金属系、窯業系、製織システム、バイオ系、表面処理、デザイン、染色化学の各チームから構成されています。私は金属系チームに所属し、工業材料及び製品に含まれる金属成分分析に関する技術支援を主に担当しています。身近な『ものづくり』に関する業務と違って、分析技術に関する業務は『見せるモノ』が少ないため、分かりやすく説明するにはどうしたらいいのか、何を指すべきかをいつも悩んでいます。

その模索の一つとして、依頼分析において、分析結果の提示だけでなく、分析技術そのものを広めていきたいと考えています。たとえば、企業の方の中には、『本当は社内で分析を行いたいが、酸の取り扱いなどが難しい。できれば実際に前処理を行っているところを見て勉強したい。』などの要望もあります。このような場合、先ほどの共同研究などで得られた知見をもとに、中小企業技術者研修事業（ORT）などを通じて、各企業の要望に沿った形で技術支援を行うようにしています。

このように、日々、分析機器のお世話になっています。その際、分析機器を使う上でよく言われていたことが、趣味の世界でも役に立ったことがありました。

それは、十数年ほど前、まだまだ券売機で切符を購入していた頃のお話です。電車に乗る時、定期券や最近では交通系ICカードを使うために、切符をじっくり見る機会も少なく、切符に時間が印字されていることに気がつかれていないのではないのでしょうか？ 私は、切符に印字された時間を見ながら、一度その数字がそろった切符を買ってみたいと思うようになりました。

お昼休みが始まってすぐ、誰も居なければ良いなあと思いつつ駅に向かいました。駅から近い職場だったので、5分ぐらいで到着していたと思います。京都駅から一つ目の駅でしたが、当時単線のおかげで列車本数は少なく、2台ある券売機はどちらも空いていました。ひとまず、安心したのを記憶しています。でも、その時、券売機の時間って合っているのかなあと思い、試しに1枚買ってみたいところ何分か進んでいました。ビックリし



て、もう1台の券売機でも買ってみたいところ、こちらは大体合っていました。2台ある券売機の時間設定が全く違うことを発見しました。その頃、機器の使用前点検、設定の確認などにも注意を払うように言われていたので、日ごろの癖がこんなところで役に立つものだと感心しました。

で、券売機の前で待っていると、切符を購入しそうな年配の女性が近づいてきたので、「お先にどうぞ」と順番をゆずったところ、「いえ、私も後で買いますから、お先にどうぞ」と答えが返ってきました。「もしかして、12分ですか？」とお聞きしたところ、「3枚頼まれました。」と。「え！」と思いましたが、一緒に買うことになり時間になるのを二人で待っていました。女性に「まだ、早いよ！」と言われながらも切符を買ったみたいところ、既に11分になっていて、女性は驚いていました。さらに、もう1枚買い12分になっているのを確認してからできるだけ急いで買い続けました。この時は1枚1枚の発券がかなり遅く感じ、もどかしい思いをしました。無事二人とも1分間の勝負に勝ち、なんとか希望の切符を手にすることができました。写真はその時に買った切符です。平成12年12月12日12時12分と数字がそろっています。それにしても、ライバルの出現（しかも、頼まれ）にはドキッとしましたが、それ以上に券売機の時間が合っていないことにもビックリしました。もし、券売機で切符を買うことがありましたら、切符に印字された時間を確かめてみてください。

最後に、分析は「科学・技術・技能」の三位一体が大切だと思っています。科学（理論）も重要ですが、職人的技能とその集大成である技術が合わさってはじめて、使える分析になると思っています。その基本として、機器を使う時は、使用前の設定の確認や変更した設定を元に戻すことから心掛けています。

今回は、和歌山県工業技術センターの松本明弘様にお願いました。日本分析化学会、分析分科会だけでなく、近畿地方の国公設試験機関で行われるテニス大会でもお世話になっています。

〔(地独)京都市産業技術研究所 南 秀明〕